

ハワイ短期プログラムの報告

人文社会科学部 3年 S・U

今回のハワイ研修では、選ばれた学生として貴重な経験をさせていただきました。心より感謝申し上げます。弘前のプロモーション、豊盃のプロモーション、ハワイの現地の子供たちとの交流など、たくさんの人と交流する機会と経験を得ることができました。5日間は朝から晩まで毎日忙しく、充実した期間になりました。ホノルルフェスティバルへの参加を通して、総じてチームで働くことの楽しさとメリット、さらに想定外へ対応する方法を学ぶことができたと思います。

現地の子供達の教育プログラムへの参加では、チームで動くということの大切さについて学んだ。フェスティバルの初日、折り紙での金魚ねぶた制作を通して現地の子供たちと交流する機会があった。私たちは事前準備として、日本で金魚の台紙などを用意していった。しかし参加する子供達の人数の見積もりが予想を超え、対応に切羽詰まる場面が多くあった。次々とくる子供たちのグループに加え、子供たちの金魚ねぶた作成にも時間がかかるなど、かなりぎりぎりの状況。金魚ねぶたのボディである風船をあらかじめ作るなど工夫を凝らし、全員で（国際連携本部職員の皆さんと JTB の添乗員さんも巻き込み）団結し危機を乗り越えた。全体で五つの子供たちのグループが参加したが、一つのグループが終わるたびに、問題を的確に指摘し反省を即座にフィードバックすることができたと思う。私がこの事例を通して学んだことは、チームで動くことのメリットだ。チームでは他の仲間を信頼し、各自がそれぞれの仕事に責任を持つことが大切になる。私は今回子供たちに対して、チームを代表して折り紙を教える司会者の役割を任された。イベントにおいて司会者は「顔」だ。想定外の状況であるからと言って、司会者が翻弄されては参加者を不安にさせてしまう。10分間という短い時間で対応するという場面転換の多い現場で、何をすればいいのか、自分の仕事を見失いそうになる場面が何度もあった。しかしそのたびに次のグループの折り紙を準備する他の仲間から「(下準備は自分たちがするから) お前は前にたて」との指摘があり、自分の役割を認識した。他のメンバーを信頼して、自分の仕事をする。今回は下準備することよりも、子供たちをリードすることが私の役割であった。チームで動く時は、自分の役割をそれぞれが全うすることが肝心であり、それは同時に他のメンバーへの信頼があるからこそ実現できることなのだと感じた。このことは私にとって今回のハワイでの一番の学びであると思う。



本命である二日間にわたる SAKE&FOOF Fest でも子供たちとの交流の際と同様、想定



外の連続であった。しかしそれを乗り越えることで、想定外の状況への対応力が身についたと思う。フェスティバル来場者への対応のため学生同士でグループを作ったが機能せず、手探り状態からのスタートとなった。三浦酒造さんと学生三人一組でブースを仕切る形態を想定していたのだが、多くの来場者がブースを訪れ酒の減りが急速であったため、結局全工程を全員で仕切ることになった。最初に決めた役割は、全く機能しなかった。しかし手探りで臨機応変に対応していく方法も案外悪くなかったと思う。この場でも反省を即座にフィードバックするということが役に立った。例えば、人がごった返す中でのテイスティングは、来場者にどんどん声をかけて試飲させる方法よりも、彼らを列に並べさせて数種類ずつ試す方法のほうが効率が良い。

それぞれの場所で対応しているスタッフやブースいっぱいに広がって試飲をするお客さんを縫って酒を取りに行ったり渡したりするのはカオスだったからだ。それに列に並んでいて試飲を待っている人たちには、弘前や酒について説明できるから私たちにとってもメリットが大きかった。最初に決めた役割は全く機能しなくても、想定できない状況ではとりあえずやってみる。そのような状況では、うまく行った方法が正解になるということもあるということをも身をもって感じた。

現場での学びは、大きく言えばチームで動くことと、想定外の状況でどう進めるかということであった。二つは、仲間と一緒に対応したからこそ感じる事ができた学びであると思う。周りがやっていることから、自分が何をすればいいのか判断する。反省点をフィードバックする。最初に決めた役割が役に立たないこともあるけど、そういう時にはまずやってみることも大切である。それを、みんなでやる。それがチームでの動き方であると思う。今回は短期のハワイ研修の中だったがお互いに信頼関係を築き上げた、最高のチームだった。彼らと協力してイベントを乗り越えることがとても楽しかった。また、来場者に「おいしい！どこで買えるの？」と言ってもらったり、自分たちが準備してきたことに興味を持ってもらったりするのは、心から嬉しかった。参加者が楽しんでくれている様子は、想定外の状況でのあたふたや事前準備の苦労もチャラにさせると感じた。チームで何か一つのことをやる楽しさは、これから私が追い求めるところになると思う。ホノルルフェスティバルを通して本当に豊かな経験をさせてもらえたと思う。

ホノルルフェスティバル最終日の最後のねぶた運行は、最高としか形容できない体験だった。ハワイという土地で、弘前のねぶたを引いて練り歩く。「ヤーヤドー！」と、腹から声をだす。だんだんみんな熱狂して、一緒に叫ぶ。私にとってねぶたに参加することは初めての体験だったが、感動しすぎて涙がでてきた。こんなにいいものとは。人生の中で経験したことのない昂ぶりだった。沿道で手を振るひとたち、写真を撮ってくれる人たち。みんな私たちをみて、楽しそうに笑ってくれている姿に、心から充実感を感じた。

はやぶさやハワイ研修、思えば大学の顔として「世界に発信する」プロジェクトに参加させていただくことが多かったと思う。長期の留学と比べて短期で結果が求められるプロジェクトに多く参加させていただいているおかげで、一つ一つの学びの密度が濃いと思っている。今回のハワイホノルルフェスティバルでは、チームで働くことの楽しさを心から感じた。この体験は次に私の求める「チームでの活動」の基準となった。次は、別の仲間と、これよりももっと大きな成功を見たいと思っている。短期ハワイプログラムを通して、このような志を持つことができた。メンバーの一人として声をかけていただいたことに、感謝してもしきれない。この経験を糧に、自分の次の目標のために何をしなければいけないのか、向き合いたいと思う。

ハワイ研修事後報告書

教育学部 S・A

2024年3月7日から12日にかけてハワイで行われた短期海外研修プログラムに参加してきました。今回の研修プログラムでは、初日に、弘前大学の協定校であるハワイ大学マノア校への訪問をしました。2日目以降の Honolulu Festival では、エジュケーションプログラムの一環として現地の小学生と金魚ねぶた折り紙体験、三浦酒造さんのブースのポスター作成や英語通訳を行い、最終日には弘前ねぶた卍會さんのねぶたへの参加を行いました。今回は Honolulu Festival を中心に記載させていただきます。

Honolulu Festival とは、日本各地のお祭りや文化などの交流を通じて、日本とハワイの交流を深めるためのイベントであり、1995年から始まり今年で28回目を迎えます。3日間、食、文化、教育等数多くのプログラムがありました。

○エジュケーションプログラム



2日目に行われたエジュケーションプログラムでは、現地の小学生とともに金魚ねぶたを折り紙で作りました。100人分の用意をしたのですが、当日、私たちの想像をはるかに超えた人がブースに足を運んでくださりました。

1グループ30人以上一気に来たときは、6人だけではさばききることはとても大変でしたが、自分が何をすればいいのか周りを見て臨機応変に対応し、子供たちを笑顔にすることが出来ました。どのようにしたら効率よく、子どもたちが楽しんでくれるのか、試行錯誤しながらチーム一丸となり取り組みました。出来上がった金魚ねぶたを周りに見せびらかしながら、笑顔になって帰っていく子供たちをみて達成感を味わうことが出来ました。大人の方にも好評で、保護者の方からは、「おうちでも作りたい」「実際に金魚ねぶたを見に行きたい」といった声もありました。折り紙の折り方を英語で説明することはやはり難しかったですが、動きを使ったコミュニケーションによって、相手に何が言いたいのか伝えることが出来ました。

○三浦酒造さんのブースでの英語通訳

3日目、4日目は豊盃を作っている三浦酒造さんのブースに通訳として参加させていただきました。研修が始まる以前に、三浦酒造さんと弘前市観光部さんへの訪問を行い、日本酒に関するポスターと弘前の冬に焦点をあてたポスターの作成をし、説明に欠かせない



日本酒の勉強などを行いました。英語で日本酒の説明をしながら弘前市の説明をすることは相手にしっかりと伝えることが出来るのかとても緊張しました。ハワイでは、日本から移住した人や日本人の二世、三世の方がいるため、話しかけるまで相手が日本語を話すのか、英語を話すのかわからなかったですが、日本語と英語をフル活用しながら説明することが出来ました。中には、「この時はこういう表現をしたらいいよ」と、英語の表現の仕方を教えてくれる方もいました。今回の試飲では、特別純米2種（豊盃と華思い）、純米大吟醸の3種類を提供しました。

純米大吟醸を dry、華思いを sweet、特別純米を smooth と表現しながら、3種類のどの部分が違うのか、何の食べ物と会うのか、豊盃の作り方などを説明し、飲み比べていただきました。どの方も「おいしい」「止まらない」「こんなにおいしいお酒をなんでハワイでは買えないの?」といった嬉しい声が聞こえてきました。中には、「このお酒がすべての中で一番おいしいので買いに行きます。」「実際に青森観光の予定を立てています。」と実際に行動に移す来場者さんもいらっしゃいました。弘前市のポスターにも興味を示していただき観光促進につながったのではないかと考



えます。用意したお酒が全部なくなった瞬間は何とも言えない幸福感と達成感がありました。

○パレード参加

最終日の夜には弘前ねぷた卍會さんのねぷたに参加させていただきました。



ハワイのホノルルに響き渡るヤーヤドーの掛け声とお囃子の音は大変印象的でした。最後から2番目ということもあり、見ている方が手を振ってくださったり、アロハのポーズをしてくださったり、一緒に声を出してくださったりと熱気があふれていました。

国境を越えたお祭りは言葉や文化の壁を越え人々の心に深く刺さるのではないかと考えます。

○最後に

このような貴重な機会をいただき、弘前大学基金に寄付して下さった皆様に深く感謝申し上げます。これから高めていくべき国際人として必要なことや異文化理解の大切さグローバルな視点を持つことの重要性をこの研修を通し実感できました。現地では、たくさんの方との対話を行い、日本語から英語に瞬時に切り替える能力や自分の言いたいことを表現する能力を養うことが出来たと思います。この経験をきっかけに、言語の勉強に精進し、大学での国際交流の活動や異文化交流に積極的に参加していき、青森県に少しでも学んだことを還元できれば嬉しいです。ありがとうございました。

ハワイ研修を通して感じたこと

医学部医学科 S・S

2024年3月7日から12日にかけてハワイにて行われた短期海外研修プログラムに参加させていただきました。このような貴重な機会をいただき、弘前大学基金に寄付して下さった皆様に深く感謝申し上げます。今回の研修プログラムでは、弘前大学の協定校であるハワイ大学コミュニティカレッジへの訪問に加え、Honolulu Festivalにおいては、現地の小学生への金魚ねぶた折り紙体験、三浦酒造さんのブースでのポスター制作・英語通訳、弘前ねぶた卍会さんのねぶたへの参加を行いました。今回は Honolulu Festival を中心に記載させていただきます。

Honolulu Festival はハワイ州最大規模の祭りで、ハワイと日本の交流を深めるために1995年に始まり、今年で28回目を数えます。ハワイ州のみならず日本各地から多くの団体が参加しており、3日間にわたり食、文化、パフォーマンス、教育、パレードなど多くのプログラムが組まれています。弘前大学の参加は今回が初めてであり、勝手によくわからないまま現地入りしました。

最初に行ったのは、小学生との金魚ねぶた制作体験です。あらかじめ日本で作り方を確認し、英語で手順を教えられるように準備していきました。100人分つくれるように準備していきましたが、当日の朝に予想よりかなり多くの小学生が来ると知らされたり、ブースの配置を変更したりと、その都度計画を修正しながらなんとか食らいついでいきました。アメリカの小学生にとって折り紙はなじみがないため、途中まで折ってあげてスムーズに制作できるように工夫しました。保護者がいてくれる場合は保護者が手伝ってくれるのですが、子どもが3,40人来たときは学生6人ではとても捌ききれず苦勞しました。それでも、作った金魚ねぶたを持って楽しそうに遊んでいる姿を見たり、Thank you so much! So cool! と笑顔で言われたりすると、やっぱりやってよかったなと思いました。もしかしたら英語は片言だったかもしれませんが、どんどん形になっていく折り紙に子どもたちは興味津々で、言葉じゃなくても伝わるものはあるんだなと改めて思いました。



次に行ったのは三浦酒造さんのブースでの英語通訳です。先だって三浦酒造さんの酒蔵の見学や日本酒の勉強、紹介ポスターの作成、豊盃の試飲など、来てくださった方にどんなことでも説明できるよう準備していました。また、今回のプロモーションを弘前市および青森県の観光促進につなげるため、弘前市観光部さんにも訪問させていただきました。最初は英語できちんと説明できるか少し不安でしたが、お客さんもお酒が入っているからかみんな朗らかで、楽しそうに話を聞いてくれました。今回は純米大吟醸1種、純米吟醸2種（豊盃米と華想い）の試飲を行いました。英語では辛めのお酒を dry、甘めのお酒を sweet、飲みやすいお酒を smooth と表現します。日本酒に詳しくない方には吟醸酒と大吟醸酒の違いは rice polishing rate（米の削り具合）であると説明しましたが、通な方は”junmai-ginjo”とそのまま言ってもすんなり理解してくれました。今回は試飲だけで販売はありませんでしたが、「1本いくらなの?」「この辺じゃ買えないのか?」と嬉しい声をいただき、「ぜひ今度弘前に来てください」と伝えました。弘前市の観光パンフレットも持っていましたので、弘前城、桜、ねぶたなどの紹介も併せてできました。中には「今回出店しているブースで一番うまい酒だ」と言ってくださる方もいて、大変人気で早々に持参分がなくなってしまいました。学生で作成した2枚のポスターが、力強い「豊盃」のポスターとマッチしていて、お酒と一緒に写真をとる方が何人もいました。最後の1杯がなくなった時は自然に拍手が沸き起こり、充実感と達成感とともに終わることができました。



最後は弘前ねぶた卍會さんのねぶたです。60 団体が列をなすグランドパレードですが、ねぶたは最後から2番目で、沸ききった会場に囃子の音を奏でながら、そしてヤーヤドーの掛け声を響かせながら入場していきました。弘前でもねぶたに参加したことがなかったので、初めて参加したねぶたがハワイであることが感慨深く、また、ヤシの木とねぶたのコラボが非常に印象深かったです。卍會さんのご厚意で、先導する方の掛け声もやらせていただきました。歓声の中、これでもかというほどハワイの空に向かってヤーヤドーと吠え、弘前の街と人の温かさとをどうしてかハワイで感じました。今回の研修を通して、改めて英語の重要性を理解し、同時に言語を超えたコミュニケーションの大切さ、津軽の文化の奥深さ、日本人としてのアイデンティティを再確認しました。本研修がハワイと日本の文化交流、また弘前市の観光振興に少しでも寄与できたならば幸いです。ありがとうございました。

海外短期研修プログラム（ハワイ）活動報告

医学部心理支援科学科 N・S

プログラム日程

2024/03/07	ホノルル着 ハワイ大学コミュニティカレッジへ協定校訪問，キャンパス見学
2024/03/08	教育・交流プログラムにて現地の子どもたちと交流（金魚ねふたの作成）
2024/03/09	三浦酒造さまのブースにて試飲の手伝い（通訳ボランティア）
2024/03/10	グランドパレードにて弘前ねふた卍會さまのねふた運行に参加
2024/03/11	ホノルル発
2024/03/12	羽田着→青森

印象的だったこと：外見の違いを超えた多文化共生

プログラムを通して印象的だったことは、ハワイには様々な文化的背景を持つ方々がいて、それらが自然と共生しているということです。現地の子どもたちとの交流や通訳ボランティアでたくさんの方々とお話しさせていただきましたが、日本人だと思い日本語で声をかけた方が、実は、日本人3世で日本人らしい外見をしているが、生まれも育ちもハワイであるため英語しか話せない方であったり、その逆で「外国人」のような見た目でも日本語が話せる方がいたりするなど、見た目を越えた文化の多様性があるように感じました。また、金魚ねふたづくりで関わった子どもたちも、アメリカ人だけではなく、ヒスパニック系のルーツを持つ子やアジア系の子、ハワイの伝統文化であると思われる顔に特徴的な化粧をしていた子など様々な見た目を持つ子どもたちがいました。しかし、同じようなルーツを持つ子ども同士でグループを作ることなく、みんなが対等に仲良しだったことが非常に印象的であり、多文化共生を象徴しているように感じました。人口の約95%が日本人である日本では、典型的な日本人とは異なる見た目を持つ者に対し好奇の目を向けるなど、日本人かそうでないかの区別が明確に存在しているように思います。しかし、グローバル化が進み、多文化理解、多文化共生が求められる今日において、重要なことは見た目で区別することではなく、コミュニケーションを通して、価値観などその人のアイデンティティを形作るものを知り、自分の価値観と並立することを認めることができることであると強く感じました。



活動を通して学んだこと

・英語に対する瞬発力

今回の通訳ボランティアを通して、相手が求めるものに合わせて、自分が表現したいことを的確にわかりやすく伝えるという英語に対する瞬発力が鍛えられたと感じています。今までの経験してきたプレゼンテーションなどと異なり、今回は試飲している間という短い時間の中で豊盃の魅力や弘前の魅力を伝えることが求められていました。そのため、キャッチーな言葉やイメージを使って相手の興味を引きつけ、端的にわかりやすく情報を伝えることが重要であったと考えます。はじめは、言いたいことはあるのに英語でうまく伝えることができず、悔しい思いをしましたが、たくさんの人々と何度も会話を繰り返すことで、よりの確に表現できる言葉遣いや視覚的資料の効果的な使い方など、伝えたいことをわかりやすく伝えるための自分なりの方法を見つけることができました。さらに、自分の伝えたいことが自信を持って伝えられるようになったことで、お客さんとより深いコミュニケーション



を取るができるようになりました。そのため、お客さんの好みに合わせて豊盃の魅力伝えたり、質問に的確に答えたりするなど、相手が求めるものに合わせて対応できたのではないかと思います。今回のプログラムで実際に英語を使って話す練習をたくさんしたおかげで、英語力、特に英語で表現する瞬発力を鍛えることができ、非常に有意義な経験になりました。

・チームワークや臨機応変に動くことの大切さ

今回のプログラムでは、事前に予想していた以上の子どもたちやお客さんに来ていただき、途中で用意していた分が足りなくなるなど様々なイレギュラーもありましたが、チームの皆で声を掛け合いながら、状況に合わせて臨機応変に対応することで、大きな困難にぶつかることもなく、無事ボランティアをやり遂げることができたと考えています。1人では問題に直面したときに問題の大きさに圧倒されてしまうこともありますが、今回は支え合える仲間がいたことで、最後まで諦めることなく取り組むことができました。また、1人では視野が狭まってしまうこともありますが、メンバーと意見を出し合うことで多面的、俯瞰的に状況を見つめ直すことができ、問題解決の糸口が見つかったこともありました。プログラム全体を通して、チームでいることの心強さとメンバーに対する信頼感を再認識することができ、絆が深まったと思います。このメンバーでハワイに行くことができ本当に嬉しかったです。

弘前大学基金さまへの感謝

ハワイでの経験を通して、人と人の繋がりがもたらす力、コミュニケーションの重要性を改めて実感することができました。先に述べたことだけではなく、弘前ねぶたの運行を通して、「じゃわめぐ（心が躍動する）」時間を共有できたことで、ハワイの方々と言葉を超えて繋がることのできた体験も非常に心に残るものとなりました。これらの経験は、今後私が様々な人と関わっていく中で、見た目や文化の違いによる偏見を持つことなく、すべての人に関いた価値観を持って接することの大切さを教えてくれたように思います。そして、弘前や日本だけではなく、世界へと私の将来を広げてくれる架け橋になると強く感じています。この度は、ハワイでの海外短期研修プログラム参加に際し、ご支援をいただきました皆様方に深く感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。



本研修では1日目に協定校である「ハワイ大学コミュニティカレッジ」への訪問、2日目に教育・交流プログラムとして、現地の小学生と一緒に折り紙で金魚ねぶたの制作、3日目4日目に現地で開催された、Honolulu FestivalのSAKE&FOOD フェスティバルに出展された三浦酒造様の豊盃の試飲のお手伝いと通訳をさせていただきました。また、フェスティバルの最後には、弘前ねぶた卍會様のご厚意で、現地でのねぶた運行に参加させていただきました。ここでは、様々な貴重な経験の活動記録をさせていただきます。

～1日目～

まずは、協定校訪問です。ここでは、ハワイと日本の文化や学習環境の違いを学びました。日本の大学は、学部ごとの建物が密集しており大学の規模があまり大きくないことにに対し、ハワイ大学は一つ一つの建物が大きく、スペースをのびのびと使う点に驚かされました。また、広場ではレジャーシートを広げ談笑する学生の姿も見受けられ、日本の大学ではあまり見ることができない光景に、とても新鮮な印象を受けました。

～2日目～

次に、現地の小学生との金魚ねぶた制作です。出発前から、プログラムに参加する私を含め6人の学生と綿密に計画を進め、制作手順はもちろんのこと、英語での伝え方についても準備してきました。しかしながら、いざプログラムを開始すると、予想をはるかに超える小学生が訪れてくれたり、準備した金魚ねぶたの材料が足りなくなったりと不測の事態が多数発生しました。そこで、学んだことは、めまぐるしく変化する状況を適切に把握する視野の広さを持つこと、そのときにできる最善を尽くす実行力です。常に全体に目を向け、どこで何が起きているのか、何が足りないのかを把握することでなんとか無事に制作をすることができました。金魚ねぶたが完成した後で、現地の小学生が満面の笑みで感謝を伝えてくれた時に、無我夢中で取り組んでよかったなと心から思いました。



～3日目4日目～

ここからが本研修の最大の目的である、試飲のお手伝いと通訳です。ここでは、英語をコミュニケーションとしての手段ととらえることを学びました。英語は日本語同様、言語であることに加え、自分の気持ちを伝えるための手段であることを再確認しました。日本



語も多少、文法的な誤りがあっても伝わるように、英語も単語の羅列であっても、話してみる大切さを学びました。試飲では、豊盃のなかでも「純米吟醸」、「純米大吟醸」、「華想い」を提供しました。それぞれを Standard, Dry, Sweet と表現し、味の違いを適切に伝えることができましたようにしました。しかしながら、Standard が発音のせいかうまく伝わらずとても苦戦しました。そこで、自分が知っている他の単語であ

る、Normal を使い対応しなんとか乗り切ることができましたが、発音の大切さを再確認させられました。三浦酒造様の試飲会では、現地の酒屋さんも訪れ、豊盃のおいしさに感銘を受け、名刺交換をしてほしいという方もいらっしゃいました。私自身、通訳自体はじめてのことで多少焦りを感じましたが、必死に現地の英語のスピードについていき、三浦酒造様に伝えたいことを明確に通訳し、双方の食い違いがないように名刺交換や販売についても伝えることができました。試飲会は、三浦酒造様が持参した在庫が予定よりも数時間も早く無くなってしまふなど、大盛況の中、幕を下ろすことができました。試飲のお手伝いと通訳をする中で、どうやったらお客さんを引き付けられるのか、列の並ばせ方から待ち時間の対応など、前日の金魚ねぶたでの反省を活かし、細かいところまで意識することができました。

～ねぶた運行～

弘前出身ということもあり、個人的に印象深かったねぶた運行についても記録させていただきます。今回は、弘前ねぶた卍會様のご厚意で、現地でのねぶた運行に参加させていただきました。ねぶた運行の前日、弘前ねぶた卍會様も試飲に訪れ、当日の打ち合わせをされていたのですが、そこで弘前出身であることを話すと、ねぶた運行で笛を吹きなよと快く笛を貸していただき、急遽ねぶた笛奏者として参加させていただきました。当日は、ねぶたを前に笛を吹き、ハワイのヤシの木とねぶたの初めての組み合わせに驚かされました。現地の方の熱い声援を受けながら、ねぶた運行をすることで久しぶりに「じゃわめぐ」ことができました。



～まとめ～

本研修では、英語を通じて多くのことを学んできました。それと同時に、日本の良さ、そして弘前の良さを再確認することができました。私自身、初めての海外でしたが、知ら

ないこと、はじめてであることを恐れないことが最も大切だと感じました。自分がわからないから、やったことがないからと怖じ気づくのではなく、はじめてだからこそこれからの可能性があると考え、何でもトライしてみることで、道が広がっていくと感じます。これからは今回の経験を踏まえ、たくさんの国を訪れ、知見を広げ、留学の魅力を発信していきたいと考えています。貴重な経験をさせていただいたこと、本研修に参加させていただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。

謝辞：今回の短期研修プログラムは、弘前大学基金の寄付金のおかげで実現することができました。貴重な経験をさせていただいたこと、寄付された方々に感謝いたします。ありがとうございました。

ハワイ研修に参加して

農学生命科学部 T・A

今回、私はハワイでの短期海外研修プログラムに参加しました。Honolulu Festivalを中心に実りある体験を経験させていただき、さまざまなスキルを向上、また新しく身につけたものもあり自分自身がレベルアップし成長できたことをとても感じております。2日間行われた Honolulu Festival では主に青森の地酒である豊盃の説明、試飲の提供、弘前市の紹介を行いました。また、ハワイの現地小学生との交流、弘前ねぶた卍會さんと一緒にパレードの参加も体験しました。

まず初めに行ったのは、Education プログラムとしてハワイの現地の子どもたちとの交流活動です。私たちは折り紙で金魚ねぶたを一緒に作り、折り紙や日本の文化を楽しんで知ってもらおうと企画しました。日本で紙風船の作り方をメンバーで練習し、金魚の尾びれや持ち手部分など作成して現地へ向かいます。当日、想定していた人数よりも多い子どもたち



が来てくれたのですが、その影響で当初考えていた動線を急遽変更したり、準備していた材料が足りなくなったりするなどの問題が生まれました。しかし、チーム全体で協力し、あるものと自分たちの知恵で良いものを作っていく精神と臨機応変に対応することで、イベントは大成功に終わりました。小学生たちが紙風船を膨らます際のワクワクした表情や、その可愛らしい姿に、私は心が満たされました。彼らの喜びや興奮が伝わってきて、一緒にその楽しい時間を共有できたことがとても嬉しかったです。子どもたちの笑顔が、私たちの努力と準備の甲斐を感じさせてくれました。子どもたちとの交流を通じて、お互いの文化に興味を持ち、理解を深める貴重な機会となりました。



次に私たちが行ったのは Honolulu Festival 当日の三浦酒造さんの豊盃の英語を使って説明、試飲の提供等です。三浦酒造さんのブースには私たちの作ったポスターも掲示させていただきました。このポスターには豊盃というお酒について、また豊盃が生産されている弘前市を紹介しています。このポスターを制作する

にあたって、実際に酒蔵を見学させていただいたり、弘前市観光部さんへの訪問もしました。そのおかげで十分満足いくポスターが完成しました。このポスターはブース

を訪れてくれた方々にも好評で、すごい！や弘前ってこんなに綺麗な場所なんだ！というお言葉をたくさんいただきました。

当日は、弘前大学からハワイ大学コミュニティカレッジへ留学している学生、弘前大学へ留学していた学生も参加してくれました。試飲が始まると、私は試行錯誤しながら英語を使って呼び込みや説明を行いました。英語でのコミュニケーションに挑戦しながら、相手が理解しやすいように工夫しました。わからないことは積極的に尋ね、自分の表現を向上させる努力をしました。何度も繰り返し伝えたりすることで自分の中の英語の恐怖心が消えていき説明や発音がスムーズに、そして楽しくなっていることを感じました。

豊盃は瞬く間になくなり、来てくれた方はみなさんとても満足していたように思います。ハワイでは手に入らないことが残念であり、多くの方が「こんなに美味しいとは思っていなかった」と驚いていました。中には青森県への旅行を計画する人もいて、自分自身も地域の魅力を再発見するきっかけとなりました。このような反応を見て、私たちも大変嬉しく思いました。来てくれた方の興味や関心を引き出すお手伝いのできたことが、このイベントが成功したという証だと感じます。さらに地域の魅力を広く伝えるために、積極的に国際交流やイベント参加などの取り組みを継続していく必要があることも感じました。

最後に、弘前ねぷた卍會さんのねぷた運行に参加させていただきました。私たちは弘前市の地元の方々と協力し、美しいねぷたを持ちながらハワイでパレードに参加させていただきました。行進の中で、弘前という地元の伝統や文化を間近で体験することができ、とても感動しました。チームのメンバーがヤーヤドーという掛け声をした時、私はこれまでの努力と達成感が溢れ出しました。参加者としてねぷ



たを持ち、パレードに参加することで、ハワイの人々との絆を深める貴重な機会ともなりました。また、多くの観光客や地元の方々が歓声を上げながら私たちを見送ってくれる姿に、温かさや歓迎の心を感じることができました。弘前ねぷた卍會さんのねぷた運行に参加したことで、地域の文化や祭りの魅力をより理解し、一生心に残る素晴らしい体験となりました。

このようなたくさんの貴重な体験を通じて、地域とのつながりを感じることができました。本プログラムは単なる語学を学ぶ場にとどまらず、地域社会への貢献や交流の機会であったと感じています。。地元の方々との交流や文化体験を通じて、私たちは自分たちの学びを地域に還元し、同時に地域の魅力の再発見と誇りに触れることができました。この経験は、私たちが将来の活動やキャリア、地域社会への貢献や多様

性や文化の相互理解、国際交流の重要性をより深く知るきっかけとなり、自身の学習にも活かしていきます。

弘前大学基金の寄附者の皆さんへ、心からの感謝をお伝えします。皆さんの温かいサポートと寄附により、私たちは本当に素晴らしい経験をすることができました。この貴重な機会を与えていただき、本当にありがとうございます。この経験を通じて、私たちは地域社会や国際交流の重要性を改めて感じました。そして、将来の活動やキャリアにおいて、この経験から得た貴重な教訓を活かしていきたいと思います。今後、地域社会や世界のために貢献することを目指し、一生懸命取り組んでいきます。皆さんの温かいご支援に感謝し、これからもより良い未来に向けて進みます。改めて心から感謝申し上げます。